



拡張が決まったさとやまの木道

「さとやまの木道」拡張

きんたろう 倶楽部 ファミリーパーク整備

富山 呉羽丘陵などの里山再生に取り組む富山市のNPO法人「きんたろう倶楽部」(鏡森定信理事長)は29日、市ファミリーパーク(同市古沢)で総会を開いた。パーク内の「さとやまの木道」の拡張

など、本年度事業を決めた。さとやまの木道は、車椅子やベビーカーでも散策を楽しめるよう、2013年から県内企業の支援を受けて整備している。今回、新規に企業からボランティアの参加と資金

提供の申し出があり、道の終端にある広場「森の駅」を24平方メートル拡張することにした。

新規事業ではこのほか、市や地主と連携して同市大山地域の私有地の竹林を伐採する。毎月、城山で開催している「呉羽丘陵フットパス」月イチウォークについては、呉羽山で活動するウォーキング団体と協力し、7、11月は呉羽山で開くことにした。測量などを今後行い、同倶楽部が整備する「わくわくの森」と既存のフットパスコースを結ぶ。

総会には約40人が出席し、終了後、会員の安宅繁正さんが「私の剣岳36景」と題し講演した。

北日本新聞 令和1年5月30日(木)

図-24